

令和元年度第1回小牧市少年センター運営協議会 議事要旨

【日 時】令和元年6月4日（火） 午前10時～午前11時15分

【会 場】小牧市役所本庁舎4階402会議室

【出席委員】加藤 邦彦、山田 幸男、谷田貝 将典、小島 康資、木村 由美、
野々川 和明、鈴木 邦充、西尾 福江（8名）

【欠席委員】采女 隆一、水草 貴裕（2名）

【事務局】鍛冶屋こども未来部長、櫻井こども未来部次長、永井課長、永井少年センター
所長、舟橋指導員、千種指導員、小林係長、岩井指導員、平野主事

【ワザパー】永井口主幹（市民安全課）、瀬尾指導主事（学校教育課）

【傍聴者】なし

【内 容】

1 あいさつ

（部長）日頃から青少年の健全育成のため格別のご尽力を賜り、お礼申しあげます。少年センターでは、少年の非行化・また被害を防止し、健全な育成を図るために、街頭パトロールや相談事業などを中心に活動をしています。

「笑顔で さきがけ あいさつ運動」を先月行い、10月にも予定をしております。委員の皆様にもぜひ活動を盛り上げていただきたいと思います。

今後、個々の抱える複雑な問題の支援から一般市民への意識啓発など、様々な課題の解決のために、他機関とも連携しながら柔軟に対応し、青少年育成の推進に努めていきたいと思っております。今後とも青少年の健全育成・非行防止のためお力添えをいただきますようお願いを申し上げます。

（会長）本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。少年センターは、子ども達を見守り、大人にしていくための重要な機関だと思います。今年度の事業計画等につきまして、ご審議のほどよろしくお願いたします。

2 議 題

（1）令和元年度活動方針について

（2）令和元年度実施計画及び取組みの重点について

○要覧1ページから14ページに基づき少年センター所長より説明

（3）補導・相談活動について

○補導：要覧15ページから17ページに基づき少年センター職員が説明

【質疑応答】

《鈴木委員》来所で相談にくる方は親子そろってくるのか。

《事務局》同時にきても、カウンセリングは別々に行っている。

《鈴木委員》カウンセリングの内容は具体的にはどのようなものか。指導は行っているのか。

《事務局》1件1件の具体的な相談内容は、カウンセラーの守秘義務のため、事務局でも把握していない。カウンセリングは、相談者に質問をしながら答えを引き出していくものなので、指導は行っていない。

《西尾委員》カウンセラーが学校や他機関と連携をとることはあっても、相談内容を他者に話さないということで、カウンセラーへの信頼が生まれるのではないか。

《鈴木委員》保護司の活動では、相手に課されている順守事項が多いので、その確認をすることが多くなる。相談者への接し方が分かれば参考にしたかった。

《西尾委員》カウンセリングを行ったことで、1名でも登校できるようになったことは非常に大きな成果だと思う。

(4) その他

《事務局》補導員研修会について、皆様方からの意見をお伺いしたい。

《谷田貝委員》愛知学園の受け入れ可能人数が少ないとのことだが、せっかくの機会なので、見学人数を絞って見学ができればと思う。

3 懇 談

《木村委員》モニター報告や学校の先生の情報を頼りに補導員としてパトロールを行っているが、子どもを見かけることが少ない。なぜ、小牧は他市に比べて少年犯罪等の件数が多いのか。

《山田委員》原因はわからないが、小牧市は名古屋市と比べると非行が低年齢化しており、グループで行う傾向があるように思う。名古屋市で見かけないような、ヘルメットをかぶらずに原付に乗っているような子どもを小牧市ではみかけたこともある。

《鈴木委員》防犯も含めて警察の業務量が多くなっているのではないか。犯罪件数自体は少なくなってきたと聞いたこともある。

《山田委員》犯罪件数自体は少なくなっている。県下の少年犯罪数は10年位前と比較すると半分位になっていると思う。過去にはシンナーを吸っている少年もいたが、今はシンナーを使用する少年は少なく、大麻などの薬を使用する方が多い。

《小島委員》いじめなどの問題は社会的に問題になっているが、不登校の子ども数は他の市町村と比較するとどうなっているのか。

《事務局》国全体の傾向として、不登校の数は年々増加している。愛知県の中でも、小牧市の不登校の発生率は高い方である。

《鈴木委員》保護司会の関係で非行防止に関する作文を募集すると、あいさつが重要だという内容の作文が増えてきた。笑顔でさきがけあいさつ運動が定着してきたよう

に思う。

《山田委員》児童買春が県下で増加傾向にある。生活のためではなく、着飾るために悪びれることなく売春をしているケースもある。性教育の必要性を感じている。

《鈴木委員》小牧市内で実際に発生しているのか。

《山田委員》市内ではない。SNS を利用したサイバーパトロールを通してこのような子どもを見つけている。

《会長》子どもたちが交通事故や殺傷事件に巻き込まれず、安心して生活できるような環境を作っていきたい。

《西尾委員》通学する子ども達を見守る防犯パトロールはどのように募集しているのか。

《事務局》各小学校が募集し、ご協力いただいている。

4 連絡依頼事項

なし